

1. 略歴

- 1972年4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1974年4月 東京大学文学部印度哲学印度文学科進学
1976年3月 同上 卒業
1976年4月 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻修士課程入学
1979年3月 同上 修了
1979年4月 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻博士課程進学
1983年3月 同上 単位取得退学
1984年1月 インド・プーナ大学サンスクリット高等研究センター在学（～1986年1月）
（文部省給費留学生）
1983年4月 財団法人東方研究会専任研究員（～1990年3月）
1990年4月 武蔵野女子大学短期大学部専任講師（～1992年3月）
1992年4月 東京大学文学部助教授
1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（大学院部局化に伴う）
1999年1月 同上 教授（～現在）

<学位>

- 2011年11月 博士（文学）（東京大学）

2. 主な研究活動

a 専門分野 b 研究課題

専門分野はインド哲学。インドの哲学的思索の伝統諸派（ダルシヤナ）のなかで、特に多元論的世界観と分析的、合理的思考を特徴とする、ニヤーヤ学派（インド論理学派）・ヴァイシェシカ学派のサンスクリット文献の解読・解釈、およびその思想（史）研究が中核となっている。そうした専門分野の研究成果を核としつつ、最近の研究テーマは、(1) インド思想における哲学と宗教の交錯関係をテキスト実証的に解明しつつ、インドの寛容精神あるいは包括主義と呼ばれる思想を、宗教多元主義や異宗教間対話・共生といった現代的な問題意識から見直すこと、(2) 「（インド）六派哲学」という概念の展開を追跡して、インド哲学史の見直しを図ること、(3) 9世紀末にカシミールで活躍したニヤーヤ学者でありかつ詩人・文人でもあるバツタ・ジャヤンタの研究の既発表論文のまとめと増補改訂作業（博士論文出版として結実する）、さらには(4) 日本の主なインド哲学研究者を研究分担者、連携研究者および研究協力者（合計40名程度）として組織し、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」（2011～2014年度）という研究プロジェクトを統括し（研究代表者として）、最終的には一般読者（特に教養課程レベルの学生）向けの啓蒙書出版へとつなげる予定である。

c 主要業績

(1) 著書（単著）

丸井 浩 『ジャヤンタ研究—カシミールの文人が語るニヤーヤ哲学』 山喜房仏書林、2014年3月

(2) 論文

丸井 浩 「『正しく知られるべき対象』（prameya）としての artha 概念の変貌——ジャヤンタが語るニヤーヤ哲学の思想史的位置をさぐる一視点」『インド哲学仏教学研究』19, 2012.3, pp. 19-59.

MARUI Hiroshi, “The meaning of a diversity of established world views or tenets (*siddhānta*) in the science of debate: with special reference to Jayanta’s interpretation of the *abhyupagama-siddhānta* (NS 1.1.31) and its evaluation in the development of Nyāya System.” *World view and theory in Indian philosophy*; ed. by P. Balcerowicz, Delhi: Manohar, 2012, Warsaw Indological Studies Series 5, pp. 407-432.

MARUI Hiroshi, “The structure of the whole discussion on *zabda* in the *Nyāyamañjarī*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 61-3, 2013.3, pp. (35)-(44).

丸井 浩 「ジャヤンタによるシャクティ概念批判—*Syādvādaratnākara* における “Pallava” の引用断片に関する追記—」『奥田聖應先生頌寿記念 インド学仏教学研究論集』 佼成出版社、2014年3月、pp. 189-204.

(3) 学会口頭発表（論文発表となったものは除く）、シンポジウム／パネル（報告者・司会）

MARUI Hiroshi, "How to identify the fragments from the "Ācāryāḥ" and "vyākhyātārah" in the Nyāyamañjarī." 21 Aug., 2012, Matsumoto, Japan-Austria International Symposium on Transmission and Tradition: The meaning of "fragments" in Indian philosophy (20-24 Aug., 2012), organized by H. Marui and E. Prets.

丸井 浩（パネル企画・司会）「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の諸相」（日本印度学仏教学会第64回学術大会パネルA、島根県民会館(松江)、2013年9月1日）

丸井 浩（基調講演）「第2回金剛大ー東京大 学術交流共同セミナー」金剛大学、2013年9月25日

丸井 浩（報告者前田専學博士に対するインタビュー聞き手）「先達に聞く：日本の南アジア研究とその時代」（日本南アジア学会第26回全国大会特別企画、広島大学、2013年10月5日）

丸井 浩「prāmānyaという概念を考えるー『シュローカ・ヴァールッティカ』教令章を中心にー」第20回インド思想史学会、東京大学、2013年12月21日

(4) 報告記事、書評、その他

[新版編集協力、新項目執筆]『[新版] 南アジアを知る事典』平凡社、2012年5月

丸井 浩「寛容宥和の精神と包括主義ーインド的思惟の特質と新たな共生のしくみ」『地球システム・倫理学会会報』7, 2012, pp. 91-99.

丸井 浩[書籍紹介]Shaku Goshin (釈悟震), English tr. and ed.: *The Urugodawatte Great Controversy, New English Translation & the Sinhala Text*, Colombo: Udaya Graphics Press, 2012 (『東方』28 (中村元博士生誕100年記念号)、2013年3月、pp. 402-405.

丸井 浩 [大学広報誌記事]「インド哲学と時間」『淡青 tansei』26、2013年4月、pp. 30-31.

丸井 浩 [国際シンポジウム報告]「伝統知の継承と発展ーインド哲学史における“テキスト断片”の意味をさぐるー」『東方学』126、2013年7月、pp. 147-157.

(5) 講演など

丸井 浩「インド思想と幸福論ー仏教の無我説とバートランド・ラッセル」(平成24年度足利学校アカデミー「日本文化の中のアジア世界」第2回講義、2012年6月17日)

丸井 浩「無分別のすすめーインド哲学から手繰り寄せるパラドックスの真理ー」(日本能率協会「企業人としての人間研究会」、日本能率協会、2012年11月28日)

丸井 浩「価値観の多様性と新たな共生のしくみーインド思想から学ぶー」(平成25年度足利学校アカデミー第6回講義)

丸井 浩「人は生まれながらにして三つの負債を負うー古代インドのおかげさまの思想ー」(公開講演会、公益財団法人モラロジー研究所、2013年7月20日)

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等・学会役員

学習院大学非常勤 (思想史講義)、2010.4~2011.3

NPO 法人中村元記念館東洋思想文化研究所 (東方学院松江校) 2013年度集中講義

日本印度学仏教学会、理事、常務委員、2012.4~2014.3

日本宗教学会、評議員、2012.4~2014.3

(2) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

日本学術会議会員第22期 2011.10~2014.9、同第一部幹事 2011.10~2014.3

財団法人東京大学仏教青年会、理事、2012.4~2014.3

公益財団法人中村元東方研究所、理事 2012.4~2013.3、主任研究員 2012.4~2014.3、常務理事・事務局長 2013.4~2014.3

財団法人大法輪石原育英会、理事、2014.3~